

仙台市障害者等保健福祉基礎調査

居住系の障害福祉サービスを提供する事業所の職員への聴き取り結果（概要）

分 野	内 容
人材	<p>職員慢性的な不足が年々顕著になり、職員への負担が過重になっている。</p> <p>この 10 年間、障害福祉分野で働きたい学生が非常に少なくなった。東北福祉大学を卒業する学生の 8 割以上が企業に就職する。</p> <p>人材が不足しており、人が集まらない状態。離職率が高い一方で、事業拡大には、離職者以上に人を確保しなければならない。</p> <p>従業員の半分がパートであり、みなさん地域住民の感覚でいるため、どのように福祉の基本的な考え方を伝えるか難しい。</p> <p>グループホームでは、夜間の担い手不足が深刻。また、財源の問題で、パートが第一線で働き、正職員が補助する形になっており支援力が小さい。さらに、パートの孤立も問題。人材が枷になって、受け入れることができる対象者の状態像が限られており、働き手の質を上げていくことが課題。</p> <p>入居者の高齢化・重度化・医療的ケアが必要な方が増えてくるなどの変化により、看護師の存在が今後重要。</p> <p>男性ヘルパーが少なく、ボランティアも減っている。障害のある人が、外に出ていくためのサービスや資源が減ってきているのでは。</p>
グループホーム	<p>空きがなく、入居希望者の待機の状態も分からない。入居の問い合わせも多いが、建築基準法や消防法の関係で整備が困難。</p> <p>給付費が少なく、採算性について試算が必要。また、障害の程度などを踏まえて、外部型や包括型などのグループホームについて整理してほしい。</p> <p>既存の物件を使うにはかなり投資が必要である一方、補助金は少ない。また、新築や建て貸しの場合、家賃が高くなってしまう。運営規模と収支の見込の見通しが立たなければ、怖くて参入することができないのでは。</p> <p>家族に求める生活上のことを、職員に求めるようになってきていると感じる。</p> <p>現在も入居希望者が非常に多いが応えられない。給付費の体系は自立度の高い人が基準になっているので、現行の制度でも継続が厳しい。</p> <p>初めてグループホームでの看取りをしたが、職員の人手がかかり、概念も浸透しておらず職員は疲弊してしまい、難しかった。</p> <p>知的障害のある方については、グループホームであれば法人が責任を持ってくれるので、親が頼ることなる。施設化が進んでいると感じる。</p> <p>高齢化が進むと夜間支援がより必要になる。また、結婚などで生活支援が必要であるため、加算などで臨機応変な対応をお願いしたい。</p>